２０１８年（平成３０年）７月２１日　土曜日

東奥日報　１９面　掲載

第100回 全国高校野球 青森大会

第９日

光星爆発 アーチ攻勢

山田高涙 コールド負け

3ラン4発 驚きの展開

1回但井 2、3回武岡 6回長南

あす決勝 光星×聖愛 6年ぶり顔合わせ

第100回全国高校野球選手権青森大会は第9日の20日、弘前市のはるか夢球場で準決勝2試合を行った。八学光星は初回に但井（たい）、二、三回に武岡、六回に長南（ちょうなん）と、4本の3点本塁打を放つなど打線が爆発。青森山田に15－7で七回コールド勝ちを収めた。聖愛は初回に1点を失ったが、先発長尾が三回の打席で左越え本塁打を放ち同点。七回に追加点を挙げ、2－1で弘前工を振り切った。八学光星は5年連続、聖愛は5年ぶりの決勝進出。両校の決勝での顔合わせは2012年以来6年ぶり2回目となる。21日に休養日を挟み、決勝は22日午後1時、同球場で行う。（本紙取材班）

▽準決勝（はるか夢）
青森山田 1 0 3 0 3 0 0 7
八学光星 4 3 3 2 0 3 × 15
（七回コールド）
（青）平沼、堀田、上崎－土屋、佐々木優
（八）福山、中村－秋山
▽本塁打 但井、武岡2、長南（八）
▽二塁打 佐々木優（青）
▽暴投 福山、中村（八）

【青森山田－八学光星】▷写真右…１回裏、八学光星１死一、二塁、但井が左翼に勝ち越しの３点本塁打を放つ。二走・長南▷同左…２回裏、八学光星無死二、三塁、武岡が右翼に３点本塁打を放ち７－１とリードを広げる

【評】八学光星は初回、1－1の同点に追い付き、さらに1死一、二塁で、但井が左越えに3点本塁打を放ち、六回にも長南が3点本塁打を放つなど、計4本塁打を含む14安打、15得点で圧勝した。青森山田は五回までに10安打7得点と食い下がったが、投手陣が打ち込まれ逆にリードを広げられ、制した八学光星だった。

勝利も「ふがいない」

○…ライバル校対決を制した八学光星だったが、主戦福山は素直に喜べなかった。先発し青森山田打線に10安打7失点を喫した。打線の援護に助けられたが「ふがいない投球だった」と唇をかんだ。

「気迫を前面に出して、マウンドに立ったが、ボールが先行し自ら首を絞めた。変化球の制球が安定せず、直球で勝負したところを狙われた。六回から中村に救援を頼み不完全燃焼のままマウンドを降りた。昨夏は2年生エースとして決勝でリリーフし、追加点を許して敗れた。その悔しさを糧に1年間努力を積んだ。一緒に頑張ってきた仲間のためにも、隙をつくらず勝ちにこだわる」と引き締め直した。

ハイライト

青森山田ナインは見上げる

しかなかった。八学光星は今大会最多の一試合4本塁打で15得点。しかも本塁打はすべて2ラン。「まさかこんな展開になるとは」と仲井監督も驚く圧勝。昨夏の決勝で敗れた相手にリベンジを果たした。一番を、大差で制した。

「価値がある」（仲井監督）

1発目は二の試合でスタメン復帰の但井。初回1死一、二塁の打席に立つとイン ハイの直球を強振。打球は青森山田の応援団が埋める左翼席に飛び込んだ。猛攻ののろしをあげる一発に「自分のスイングができた」と納得の表情を見せた。

2発目は二回、武岡の第2打席。「まっすぐを狙っていた。直球を十分に引きつけ一気に振り抜くと、打球は追い風に乗って右翼席に消えた。手に残った確かな感触は自信に変わった。三回の第3打席は打った瞬間それとわかる文句なしの打球を右中間に。人生初の2打席連続アーチに「最高の結果。やってやった」と笑みがはじけた。

主将長南も六回に自身高校通算25本目となる3点本塁打を右翼席に運んだ。この一発でチームはコールド勝ち「雪辱を果たせた」と達成感に満ちた表情を見せた。

2年ぶりの甲子園が目前に迫った。長南は「自分たちの野球を信じてやるだけ」。ライバルを乗り越え、自信が確信に変わった。（高松拓輝）

【写真右】3回裏、八学光星1死一、二塁、武岡が右中間席に2打席連続の3点本塁打を放ち、10－4と再び突き放す

【同左】6回裏、八学光星1死一、二塁、長南が右翼席に3点本塁打を放ち、15－7とリードを広げる

【八学光星】
一塁手 林井野山山村併殺
中堅手 北畠笑 監督 福中

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです